

就きては、舊唐書廻紇傳には

開成初其相安允合者、與特勒柴草^{〔六六〕}、欲篡薩特勒可汗、薩特勒可汗覺、殺柴草及安允合、又有廻紇相掘羅勿者、擁兵在外、怨誅柴草安允合、又殺薩特勒可汗、以廬駭特勒爲可汗

と記せり、茲に舊唐書が薩特勒と記せるものは、新唐書及び其の他の書に曷薩特勒と記せるものの略にして、而して實は胡特勒昭禮可汗に關する事實を誤り傳へたるものなることは前に述べたるが如し、されば開成の初に於ても、既に昭禮可汗の位を篡はんとしたる事件ありしものにして、可汗の殺されたるは實に此の時の變に因由を有したるに外ならず、さて掘羅勿の可汗を殺したる次第に就きては、新唐書回鶻傳には

開成四年、其相掘羅勿作難、引沙陀共攻可汗、可汗自殺、國人立廬駭特勒、爲可汗
と見え、同書沙陀傳には

開成四年、回鶻徑磧口、抵榆林塞、宰相掘羅勿、以良馬三百遺赤心、約共攻彰信可汗、可汗死」

と記し、通鑑開成四年の條に引ける後唐獻祖紀年錄には、更に之を詳かにして

開成四年、回鶻大饑、族帳離、復爲黠戛斯所逼、漸過磧口、至于榆林、天德軍使溫德彝、請帝爲援、遂帥騎赴之、時胡特勒可汗牙帳在近、帝遣使說回鶻相噶沒斯、爲陳利害云云、噶沒斯然之、決有歸國之約、俄而回鶻宰相勿篤公叛可汗、將圖歸義、遣人獻良馬三百、以求應接、帝自天德引軍至磧口援之、爲回鶻所薄、帝一戰敗之、進擊可江^{〔汗之誤〕}牙帳、胡特勒可汗、勢極自殺

と記せり、紀年錄の宰相勿篤公が兩唐書の掘羅勿に外ならざる可きは既に述べたるが如くなれば、彰信可汗の死に